

付篇

館蔵品調査報告
—下松市生野屋採取古代土器—

横山 成己

1. 資料の由来(表8)

山口大学埋蔵文化財資料館には、昭和52(1977)年の竣工以前に、県内各地にて本学教員および学生により採取された考古資料が多数収蔵されている。その多くは、本学教育学部で教鞭を執っていた小野忠熙氏と、氏の指導した地理学談話会および文化会考古学部所属の学生により採取されたものとみられる。資料情報として採取年月日の残るものは限られるが、採取時期としては小野氏が教育学部光分校着任してまもなくの昭和25(1950)年以降から、本学吉田地区(山口市)統合移転直前の昭和30年代末頃までに集中するようである。

これらの資料群のうち、本稿にて紹介するのは下松市生野屋^{註1}にて採取された古代の遺物群である。当館の資料収蔵状況としては、遺物コンテナ番号80、遺物収納袋番号4とコンテナ番号24、遺物収納袋番号3に該当する(表8)。採取年月日は残されていないが、昭和36(1961)年刊行『山口県文化財概要第4集 埋蔵文化財』(山口県教育委員会)所収の「山口県埋蔵文化財一覧」にその地名が見られないことから、昭和36年以降に採取された可能性がある。

2. 下松市生野屋について

『和名類聚抄』大東急文庫本に記載される周防国都濃郡に「久米 都濃 富田止无田 生屋 駅家 平野 駅家」の郷名が挙げられていることから、現在の下松市生野屋は、古代における生屋郷の一部に該当すると考えられている。生屋郷に関しては、古く御菌生翁甫氏が生野屋駅家郷としてその範囲を「花岡^{註2}村の内生野屋村 久保村の内山田久保市巻切山 並に米川村古郷域」と、現在の生野屋から東部そして南北に広く推定している(御菌生1931)一方、八木充氏は「生野屋から花岡、末武の東部にかけての山脚部に散在する民家の存在形態を想起できる」と、西部に広くその範囲を想定している(八木1989)。

また、『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条に周防国の駅家として「石国、野口、周防、生屋、平野、勝間、八千、賀室」の名が示されているため、御菌生氏は生屋郷＝山陽大路生屋駅家郷と同一視するが、八木氏は生屋・平野両郷と駅家郷は別の行政単位(生野郷や平野郷から各二〇戸(または二五戸)をさいて編成した、駅家業務のための戸の集団)とみなしている。

考古学の見地では当地における古代の情報は皆無と言って良い。先行する古墳時代に関しては、北方熊毛丘陵から南に派生する丘陵部に、主体部のみの遺存であるが前期古墳と目される花岡3号墳(三戸田1986)、全長約48mの前方後円墳で前期後半から中期前半に推定される花岡古墳(石井1998)、後期の横穴式石室墳で南半部に家形埴輪を含む埴輪列を廻らす惣ヶ迫古墳(山本1998)などが展開している。南方北山丘陵から北に派生する丘陵部には、2基の組合式箱式石棺を有する中期前半の常森1号墳と後期末の横穴式石室墳である2・3号墳からなる常森古墳群(古庄ほか2000)、後期後半から末期の横穴式石室墳3基を含む5基からなる群集墳、為弘古墳群(山本1999)などが展開することが明らかとなっている。

表8 下松市生野屋採取遺物台帳

整理番号	コンテナNO 袋NO	日付	注記	遺物の内容	特殊遺物
INY	80-4	不明	生野屋	須恵器17片(2片接合) 土師器7片	トリペ1片 土製罫型1片 鈿澤2片
INY2	24-3	不明	生野屋	須恵器13片(INY2袋1片と接合) 土師器10片	

資料が採取された「生野屋」は、現在の下松市生野屋、換言すると旧生野屋村の範囲を示すと思われるが、残念ながら詳細な採取場所は不明である。ただし、遺物袋をまたぎ接合する資料が存在することから、同一地点で採取されたことがわかる。

現在の生野屋は、その大部分が宅地に姿を変えており、今後の考古学的調査の進行もあまり期待できない地域であるが、周知の埋蔵文化財包蔵地で示せば、北方熊毛丘陵縁辺部の宮本遺跡や西条遺跡、南方北山丘陵縁辺部の中村遺跡や為弘東遺跡に調査の鍬が入れば、何らかの情報が加わる可能性を残している。

3. 生野屋採取遺物(図31～33、写真79～82、表9・10)

採取遺物は須恵器と土師器、金属鑄造に関わる土製品等に大別される。

須恵器(INY1～24)は小型高坏裾部小片(24)や土師器甕小片(34)を除くと8世紀後半から9世紀後半にまとまる。

1～8は坏蓋。1の天井部外面中央には直線的なへら描き沈線が施され、半径約2.5cmの位置に短線でへら描き圏線が施される。口縁部外面に灰を被ることから、坏口縁に裏向きで重ね焼かれたと推定される。2は扁平な天井の中央に小ぶりのボタン状つまみを有する。採取蓋の中では径が大きく、受け部で復元径16.5cmを測る。3はややドーム状に膨らむ天井部の中央に扁平なボタン状つまみを有する。天井部から緩やかに降下し、口縁は屈曲して外方に開き、端部は鳥嘴状に下垂させる。4は焼き歪みの大きな蓋。扁平な天井から屈曲気味に口縁が降下し、端部はほぼ垂直に短く下垂させる。口縁端部外面に重ね焼露出部痕が見られる。5は重ね焼痕が見られないものの、器面調整などの特徴から4と同一個体の可能性を残す。6は7とともに採取蓋の中では径が小さく、受け部で復元径12.0cmを測る。内外面の重ね焼露出部痕から、1同様坏口縁に裏向きで重ね焼かれたと推定される。7は口縁端部の処理が6と異なるが、焼き歪みの大きな個体であれば6と同一個体である可能性を残す。

9は器種不明の蓋。大きく凹むつまみの上面に円形の墨書が施される。近隣では太宰府条坊跡に類例が見られる(宮崎・森田2002)。

10・11・15～19は高台付きの坏。10は底部外端に断面逆台形の高台がハ字状に付く。口縁は直線的にやや外方に開き、復元口径11.8cmを測る。11は底部外端のやや内側に断面方形の小ぶりの高台が付く。底部外面はへら切り後板ナデが施される。復元口径は12.0cmを測る。15は器壁の厚い個体で、底部外端に断面方形のしっかりとした高台が付く。口径は16cm以上と推定される。16も底部外端に高台が付くが、高台の断面は逆台形となる。17は底部外端のやや内側に断面縦長方形の高台が付く。高台底面にはわずかに段が形成されている。18は器壁の薄い個体で、断面逆台形の高台が底部外端のやや内側に付く。19も同様の特徴を有するが、高台はやや小ぶりで内端で接地する。底部外面に工具痕が付く。20の高台は断面が幅広の逆台形を呈し、底部外端に付く。

12は復元口径10.2cmを測る小ぶりの坏の口縁部片。口縁がわずかに外反する。13はやや強く外反して開く坏口縁部片。復元口径は14.0cmを測る。14は片口を有する坏の口縁部片。復元口径は12.8cm。稀少な資料である。

21・22は無高台の坏底部。21は平底から大きく開いて口縁が立ち上がる。底部外面に糸切痕のような痕跡が残るが、小片のため断定できない。22は土師質だが須恵器の焼成不良品であろう。内面の底一帯部境界で径を復元したが、内面回転ナデの中心部がずれることから径が大きくなる可能性を残す。

23は皿。熟練したつくりで器壁も薄い。平底から口縁が短く外反して開く。

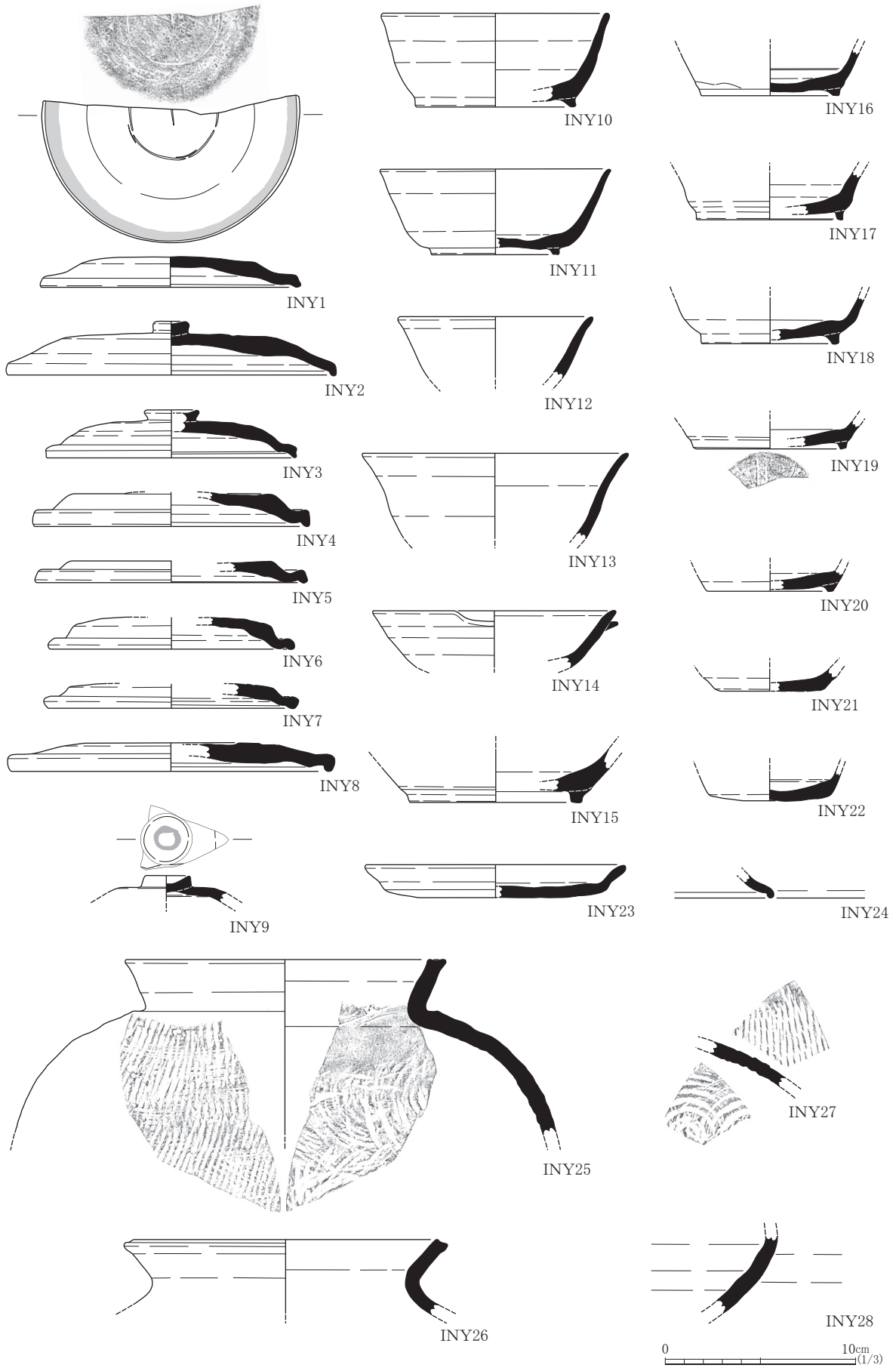


图 31 土器实测图①

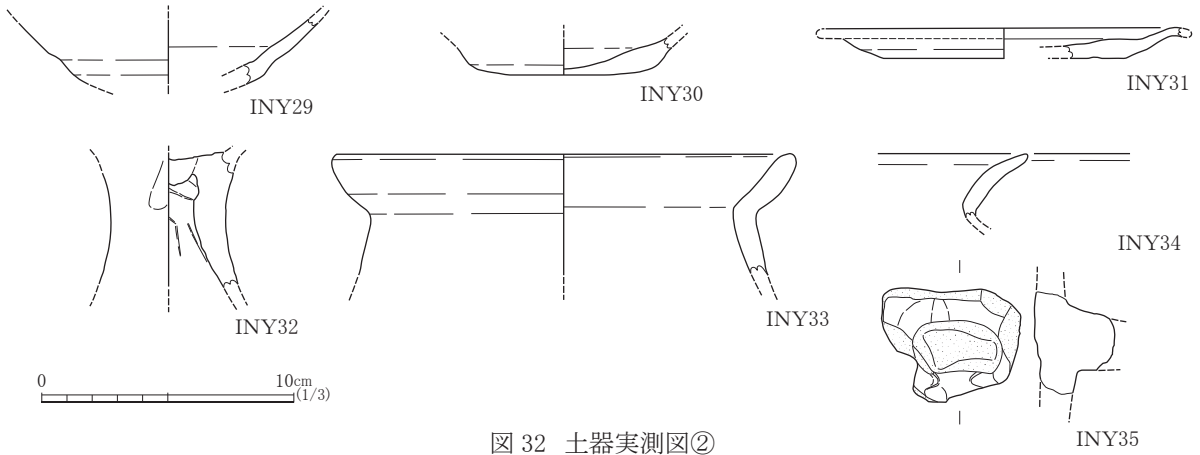


図 32 土器実測図②

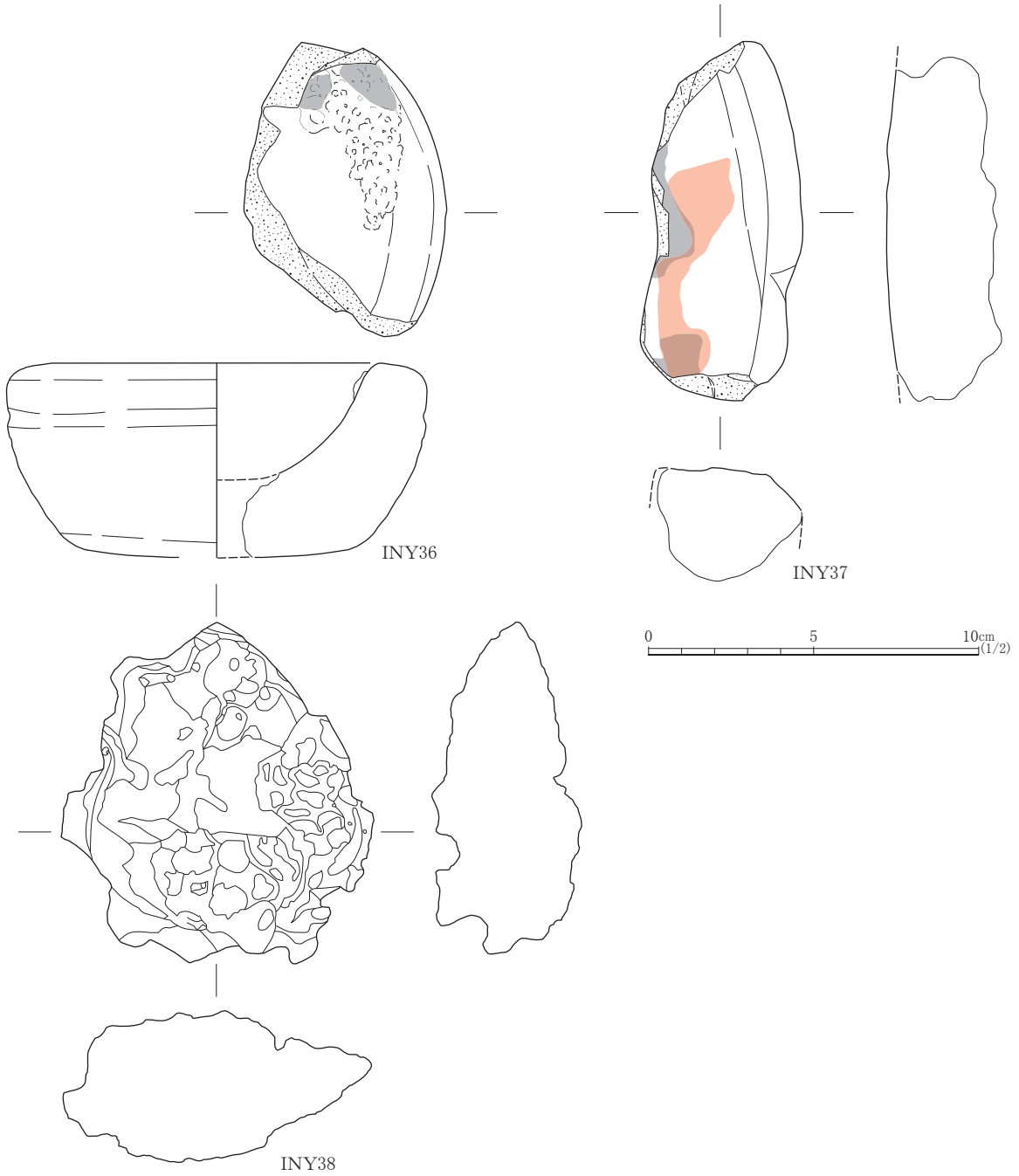


図 33 土製品など実測図

24は高坏裾部の小片。裾端部を垂直に下垂させる。他の資料に先行する資料である。

25～27は甕。25はコンテナ番号80袋番号4とコンテナ番号24袋番号3の接合資料である。球形の体部に短く外傾して立ち上がる口縁部が付く。復元口径は外端で17.0cm、内端で15.0cmを測る。復元頸部径は14.8cm。体部外面は縦位またはやや右上がりの平行文叩きを施している。内面は同心円文当て具痕をそのまま残す。26は口縁—頸部片。25と同様に口縁は短く外傾して立ち上がる。口縁上端を凹ませている。肩部に叩き痕や当て具痕は見られない。27は内面の一部に横ナデが見られることから頸部付近の肩部小片であろう。外面はやや左上がり縦位の平行文叩きを施す。内面の同心円文当て具痕は時計回りに動いている。

28は壺の体部片とみられる。内外面とも回転ナデが施されており、叩きや当て具痕は観察できない。

須恵器に比して図示できる土師器(INY29～35)は少数である。29は坏の底—口縁部片。境界に段を形成し、口縁は大きく開く。内外面に回転ナデを施すが、外面はややミガキ気味となっている。30は坏底部。焼成不良で内外面、断面が暗灰色を呈している。31は皿。扁平な器形で平底から口縁が低く開き、端部は欠失しているが外方に屈曲させている。32は高坏脚柱部片。脚柱部最少径は4.6cmを測る。面取りは行われていない。33は甕の口縁—体部片。なで肩から口縁が短く内湾して立ち上がる。器面の摩滅が著しい。34は同様に器面の摩滅が著しいが、外反して大きく開く甕口縁部片で、端部は尖り気味に丸く収めており、他の土器類と時期が異なる。35は甗の把手か。把手端部は欠失する。

土器類のほか、金属鑄造に関わる資料も採取されている(INY36～37)。36は内面に滓が付着しており、外面に顕著な被熱痕も見られないことから取鍋であろう。復元口径は内端で9.8cm、外端で12.5cmを測る。近年山口市にて調査が進行している周防鑄銭司跡にて出土した^{註3}埴塙13点(丸尾ほか2021)の口径(外端)が、復元値を含め14.3～17.8cm、平均値が16.42cmであるのに対し小型であり、平底気味であることも相違点として指摘できる。37は被熱痕が見られる土製品で、遺存面は丁寧に面取りが施されている。鉄鍋などの鑄型の可能性がある。38は鉄滓。椀形滓であり、全長10.3cm、幅9.4cm、最大厚4.5cmを測り、重量は386.9gを量る。ほかに小片1点が採取されている。磁石反応は確認したが、科学分析は行っていない。

4. 小結

当館に収蔵される資料のうち、本稿では下松市生野屋にて採取された資料を報告した。詳細な採取地点および採取状況、年月日は不明であり、考古学研究における資料価値は低いが、生野屋の歴史的背景を考慮し、図化可能品はすべて掲載した。報告した資料から、採取地周域には奈良時代後半から平安時代前期にかけて、金属鑄造を行う施設が存在していた可能性が高い。当資料群の存在が、生野屋地区に対する文化財保護行政の啓発に繋がれば望外の幸いである。

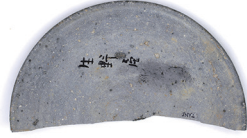
本報告を行うに際し、森田孝一氏に貴重なご意見をいただいた。末筆ながら感謝の意を表したい。

【註】

- 1) 昭和14(1939)まで花岡村。同年11月3日に下松町・久保村・末武南村と合併して下松市が発足。
- 2) 昭和4(1929)年4月1日に末武北村より改称。末武北村は明治22(1889)年に末武上村・末武中村・生野屋村の区域で制定。
- 3) 山口市では滓が付着する半球形の土製品をすべて埴塙とみなしており、取鍋の可能性が指摘されている資料は、公表された資料では内外面に滓が付着した須恵器1点のみである(丸尾ほか2023)。



INY
1-1



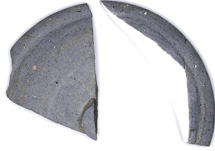
INY
1-2



INY
2-1



INY
2-2



INY
3-1



INY
3-2



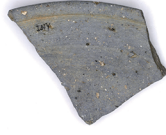
INY
4-1



INY
4-2



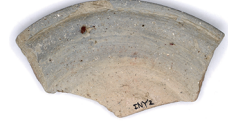
INY
5-1



INY
5-2



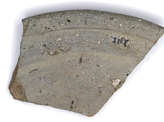
INY
6-1



INY
6-2



INY
7-1



INY
7-2



INY
8-1



INY
8-2



INY
9-1



INY
9-2



INY
10-1



INY
10-2



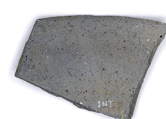
INY
11-1



INY
11-2



INY
12-1



INY
12-2



INY
13-1



INY
13-2



INY
14-1



INY
14-2



INY
15-1



INY
15-2



INY
16-1



INY
16-2

写真 79 遺物 (土器)①



INY
17-1



INY
17-2



INY
18-1



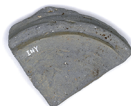
INY
18-2



INY
19-1



INY
19-2



INY
20-1



INY
20-2



INY
21-1



INY
21-2



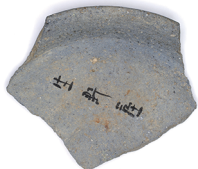
INY
22-1



INY
22-2



INY
23-1



INY
23-2



INY
24-1



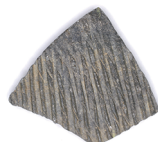
INY
24-2



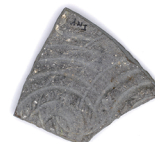
INY
26-1



INY
26-2



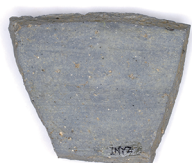
INY
27-1



INY
27-2



INY
28-1



INY
28-2



INY
29-1



INY
29-2



INY
25-1



INY
25-2



INY
30-2

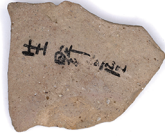


INY
30-2

写真 80 遺物 (土器)②



INY
31-1



INY
31-2



INY
32-1



INY
32-2



INY
33-1



INY
33-2



INY
34-1



INY
34-2



INY
35-1



INY
35-2

写真 81 遺物 (土器)③



INY
36-1



INY
37-1



INY
36-1



INY
37-2



INY
38-1



INY
38-2

写真 82 遺物 (土製品など)

表9 遺物(土器)観察表

法量()は復元値 △は残存値

遺物番号	コンテナ・袋	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	焼成	備考
INY 1	コンテナ24袋3	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部13.5 受け部12.6 ③1.6	①②灰色(N6/ 外面重ね焼露出部 上面 灰白色(5Y8/1) 側面 灰色(N5/)	密	良好	口縁残存率1/2 扁平な天井から屈曲して口縁部を降下させる 口縁端部は鳥嘴状に下垂させる 口縁上面と側面に重ね焼痕が見られる 天井部外面に円状のヘラ描沈線が刻まれている 中央部にも沈線が見られる 内面に文字を消した痕跡と「生野屋」の注記が見られる
INY 2	コンテナ24袋3	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部(17.4) 受け部(16.5) ③2.8 つまみ径1.8	①②灰白色(5Y7/1)～灰色(5Y5/1)	密	良好	つまみを中心に径を復元(口縁残存率1/9) 天井の中央にボタン状つまみを有する 扁平な天井から内湾気味に降下し口縁に至る 口縁端部はほぼ垂直に下垂させる 口縁外面に重ね焼痕が見られる 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 3	コンテナ80袋4	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部(13.2) 受け部(12.3) ③2.5 つまみ径(2.9)	①②灰色(N6/)	密	良好	同一個体とみられる口縁部片から径復元(残存率1/3.5) シャープなつくりで法量小さい 低くドーム状に膨らむ天井部に扁平なボタン状つまみが付く 天井から内湾して降下し、口縁は屈曲して外方に開く 口縁端部は鳥嘴状に下垂させる
INY 4	コンテナ24袋3	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部(14.6) 受け部(13.6) ③△1.8	①②灰色(N6/～5/)	密	良好	口縁で径復元(残存率1/8) 扁平な天井から屈曲して口縁が外方に開く 口縁端部はほぼ垂直に下垂させる 器壁の厚い個体 焼き歪みで口縁が全面で接地しない 口縁上面から側面にかけて重ね焼痕が見られる 18と同一個体である可能性を残す
INY 5	コンテナ80袋4	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部(14.4) 受け部(13.4) ③△1.1	①②灰色(N6/)	密	良好	口縁で径復元(残存率1/10) 扁平な天井から屈曲して口縁が外方に開く 口縁端部はやや外方に下垂させる 17と同一個体の可能性を残す
INY 6	コンテナ24袋3	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部(13.0) 受け部(12.0) ③△1.7	①②浅黄橙色(10YR8/3) 重ね焼露出部 灰黄色(2.5Y7/2)	密	不良 (土師質)	口縁で径復元(残存率1/5) 扁平な天井から屈曲して口縁が外方に開く 口縁端部はやや外方に下垂させる 口縁端部上面から口縁内面にかけて重ね焼痕が見られる 21と同一個体である可能性を残す
INY 7	コンテナ80袋4	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部(13.4) 受け部(12.0) ③△1.8	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②白灰色(2.5Y7/1)～灰黄色(2.5Y7/2) 重ね焼露出部 灰白色(2.5Y7/1)	密	不良 (土師質)	口縁で径復元(残存率1/8.5) 扁平な天井から屈曲して口縁が外方に開く 口縁端部は丸く肥厚させる 口縁端部上面から口縁内面にかけて重ね焼痕が見られる 20と同一個体である可能性を残す
INY 8	コンテナ80袋4	須恵器 坏蓋	口縁 ～天井部	①端部(17.2) 受け部(16.0) ③1.6	①灰白色(2.5Y7/1)～灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(N7/) 外面重ね焼露出部 灰黄色(2.5Y6/1～5/1)	密	良好	口縁で径復元(残存率1/4) 器壁が厚く法量も大きい 扁平な天井から弱く屈曲して口縁を降下させる 口縁端部は垂直に下垂させる 口縁上面から側面にかけて重ね焼痕が見られる 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 9	コンテナ24袋3	須恵器 坏蓋	天井部	③△1.4 つまみ径2.8cm	①灰色(5Y6/1) ②青灰色(5PB6/1)	密	良好	器壁の薄い天井部にボタン状のつまみが付く つまみの中央に「〇」の墨書が見られる
INY 10	コンテナ80袋4	須恵器 高台付坏	口縁 ～底部	①(11.8) 高台径 外端(8.6) 内端(7.8) ③4.9	①②灰色(N6/)	密	良好	高台で径を復元(残存率1/5) 底部外端に断面逆台形の高台が付く 高台は底面全面で接地する 体部はやや内湾気味に立ち上がる
INY 11	コンテナ80袋4	須恵器 高台付坏	完形復元 可能	①(12.0) 高台径 外端(6.6) 内端(6.0) ③4.45	①灰色(N5/) ②灰色(N4/)	密	良好	高台で径復元(残存率1/3) 断面方形の小ぶりの高台が底部外端のやや内側に付く 口縁がわずかに外反する 底部外面はヘラ切り後板ナデが施される 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 12	コンテナ80袋4	須恵器 坏	口縁 ～体部	①(10.2) ③△3.2	①灰色(10Y6/1)～灰白色(10Y7/1) ②灰白色(10Y7/1)	密	良好	口縁で径復元(残存率1/7) 内湾気味に立ち上がり口縁を軽く外反させる
INY 13	コンテナ80袋4	須恵器 坏	口縁 ～体部	①(14.0) ③△4.5	①灰色(5Y6/1～8/1) ②灰色(5Y6/1～7/1)	密	良好	口縁で径復元(残存率1/8) 内湾気味に立ち上がり口縁をやや強く外反させる 他の坏に比べ法量大きい 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 14	コンテナ80袋4	須恵器 坏	口縁 ～体部	①(12.8) ③△3.0	①②灰白色(5Y7/1)	密	良好	口縁で径復元(残存率1/5) 内湾して口縁が立ち上がるが片口が設けられている 法量小さい
INY 15	コンテナ80袋4	須恵器 高台付坏	体 ～底部	高台径 外端(7.5) 内端(7.1) ③△2.5	①②灰白色(N7/)	密	やや不良	高台基部で径復元(残存率1/6) 底部外端に断面逆台形の高台が付く 器壁が厚く法量も大きい
INY 16	コンテナ80袋4	須恵器 高台付坏	体 ～底部	高台径 外端(7.2) 内端(6.6) ③△2.4	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密	良好	高台で径を復元(残存率1/2) 底部外端に断面逆台形の小ぶりの高台が付く
INY 17	コンテナ24袋3	須恵器 高台付坏	体 ～底部	高台径 外端(9.1) 内端(8.0) ③△2.8	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密	良好	高台で径復元(残存率1/5) 底部外端のやや内側に断面長方形の小ぶりの高台が付く 高台底面内端にわずかに段が形成される
INY 18	コンテナ24袋3	須恵器 高台付坏	体 ～底部	高台径 外端(7.2) 内端(6.5) ③△2.4	①②灰色(5Y5/1)	密	良好	高台で径復元(残存率1/5) 底部外端のやや内側に断面逆台形の小ぶりの高台が付く 器壁が薄く法量も小さい
INY 19	コンテナ80袋4	須恵器 高台付坏	体 ～底部	高台径 外端(8.0) 内端(7.4) ③△1.45	①灰色(7.5Y6/1) ②灰色(N6/)	密	良好	高台で径復元(残存率1/4) 底部外端に断面逆台形の小ぶりの高台が付く 高台下面は内端で接地する
INY 20	コンテナ80袋4	須恵器 高台付坏	底部	高台径 外端(6.6) 内端(6.1) ③△1.1	①②灰白色(N7/)	密	やや不良	高台で径復元(残存率1/4) 底部外端に断面逆台形の小ぶりの高台が付く 法量小さい
INY 21	コンテナ80袋4	須恵器 坏	体 ～底部	③△2.0	①②灰白色(10Y7/1)	密	良好	底部で径復元(残存率1/6) 平底からやや内湾気味に開き体部が立ち上がる 底部外面に糸切痕のような沈線が残るが小片のため不確実 底部外端で径復元(残存率1/3.5) 法量の小さい坏 底部外端で径を復元したが成形時の回転ナデの中心は中央からずれている (径が大きくなる可能性あり) 底部外面に「生野屋」の注記が見られる
INY 22	コンテナ24袋3	須恵器 坏	底部	②(6.4) ③△1.6	①浅黄橙色(7.5YR8/4)～灰黄色(2.5Y7/2) ②にぶい橙色(7.5YR7/3)	密	不良 (土師質)	

館蔵品調査報告 - 下松市生野屋採取古代土器 -

遺物番号	コンテナ・袋	器種	部位	法量(cm)	色調	胎土	焼成	備考
				①口径②底径③器高	①外面 ②内面			
INY 23	コンテナ24袋3	須恵器 皿	口縁～底部	①(13.7) ②1.75 ③(11.8)	①②青灰色(5PB6/1) ～灰色(5Y4/1)	精緻	良好	口縁で径復元(残存率1/7.5) シャープなつくり 平底から口縁が短く外反して開く 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 24	コンテナ24袋3	須恵器 高坏	裾部	③△1.2	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(5Y7/1)～灰色(5Y6/1)	密	壁緻	小片のため裾部径復元不能 端部を垂直に下垂させる
INY 25	コンテナ24袋3と コンテナ80袋4が接合	須恵器 甕	口縁～体部	①内端(15.0) 外端(17.0) ③△9.2 頸部径(14.8)	①②灰色(5Y6/1～5/1) 外面灰 灰白色(5Y7/1～7/2)	密	良好	頸部で径復元(残存率1/12) 肩の張る体部 口縁は外形して短く開く 口縁端部を凹ませる 体部外面は縦位～右上がりの平行文叩きを施す 体部内面は同心円文当て具痕を残す 口縁端部と体部外面に灰を被る 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 26	コンテナ80袋4	須恵器 甕	口縁～頸部	①内端(15.8) 外端(17.0) ③△3.9 頸部径(14.0)	①灰色(N5/～)暗灰色(N3/) ②灰色(N5/～4/)	密	良好	口縁部で径復元(残存率1/8) 頸部から口縁が短く直線的に外傾して開く 口縁端部を凹ませる
INY 27	コンテナ80袋4	須恵器 甕	肩部		①灰色(N6/～N5/) ②灰色(N6/)	密	良好	頸部付近の肩部片 外面はやや左上がりの縦位の平行文叩き 内面の同心円当て具痕は右回りに動く
INY 28	コンテナ24袋3	須恵器 壺	体部		①灰色(N6/～N5/) ②灰白色(N7/)	密	良好	壺体部下半の破片 内外面とも回転ナデが施される
INY 29	コンテナ24袋3	土師器 坏	口縁～底部	②(7.6)	①にぶい・橙色(5YR7/3～7/4) ②にぶい・橙色(7.5YR7/4) ～にぶい・黄橙色(10YR7/4)	密	良好	坏 - 口縁境界線から径復元(残存率1/5.5) 浅い坏部から口縁が外方に大きく開く 口縁端部は欠失する 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 30	コンテナ80袋4	土師器 坏	底部	②(7.4) ③△1.45	①②灰色(N4/～)暗灰色(N3/)	密	不良	底部外端で径復元(残存率1/4.5) 焼成不良で内外面、断面ともに暗灰色を呈する
INY 31	コンテナ24袋3	土師器 皿	口縁～底部	②(9.6) ③△1.2	①にぶい・黄褐色(10YR6/4) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3)	密	良好	底部外端で径復元(残存率1/5) 口縁部を屈曲気味に外方に開く 口縁端部は欠失している 内面に「生野屋」の注記が見られる
INY 32	コンテナ80袋4	土師器 高坏	脚柱部	脚柱部最少径(4.6)	①にぶい・橙色(7.5YR6/4) ②にぶい・橙色(7.5YR6/4)～橙色(7.5YR6/6)	密	良好	脚柱部で径復元(残存率1/2) 内面にしぼり痕が見られる 外面に「生野屋」の注記が見られる
INY 33	コンテナ80袋4	土師器 甕	口縁～体部	①(18.0) ③△4.8 頸部径(15.2)	①②橙色(7.5YR6/6)	やや粗	良好	頸部で径復元(残存率1/7.5) やや内湾する口縁が短く立ち上がる 口縁内端にぶく面を取る 全面的に風化が著しい
INY 34	コンテナ80袋4	土師器 甕	口縁部	③△2.5	①浅黄褐色(10YR8/4) ②浅黄褐色(10YR8/4) ～にぶい・黄褐色(10YR7/4)	密	良好	小片のため口径復元不能 器壁の薄い個体 口縁はやや外反して大きく開く
INY 35	コンテナ24袋3	土師器 瓶か	把手		①橙色(7.5Y7/6) ②浅黄褐色(10YR8/4)	密	良好	瓶などの把手

表 10 遺物（土製品など）観察表

法量は残存最大値 ()は復元値 ▲は他と合計

遺物番号	コンテナ・袋	種類	部位	法量	備考
				①長さ(mm) ②幅(mm) ③厚さ(mm) ④重量(g)	
INY 36	コンテナ80袋4	取鍋	口縁～底部	口縁内端(9.8cm)外端(12.5cm) 底部径(9.5cm) 器高5.9cm ③182.95	色調外面 灰黄褐色(10YR6/2)～にぶい黄色(2.5Y6/4) 色調内面 灰色(5Y6/1)～灰オリーブ色(5Y6/2) 胎土 やや粗(0.5～7mmφ)の砂礫(くさり礫・長石など)多く混ざる 口縁内面に金属が溶着する
INY 37	コンテナ80袋4	土製鋳型か	上端部	①108.5 ②45 ③33.5 ④131.48	色調 灰黄褐色(10YR5/2)～褐灰色(10YR5/1) 被熱部色調 にぶい赤褐色(2.5YR5/3)～赤灰色(2.5Y4/1) 胎土 粗(0.1～2mmφ)の砂粒(長石・石英など)多く混ざる 上端部に被熱痕が見られる
INY 38	コンテナ80袋4	鉄滓		①103 ②94 ③45 ④386.9	

【文献】

- 石井龍彦(1998)「花岡古墳」, 山口県教育委員会(編)『重要遺跡確認緊急調査報告』, 山口
- 古庄浩明ほか(2000)『常森古墳群』, 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム(編), 豊北町(現下関)(山口)
- 丸尾弘介ほか(2021)『史跡周防鋳銭司跡－第3次・4次・5次・6次調査－』, 山口市教育委員会文化財保護課(編), 山口
- 丸尾弘介ほか(2023)『史跡周防鋳銭司跡2－第7次調査－』, 山口市教育委員会文化財保護課(編), 山口
- 御菌生翁甫(1931)「第四章 都濃郡」, 御菌生翁甫(編)『防長地名淵鑑』, 山口
- 三戸田晃司(1986)『花岡遺跡』, 山口県教育委員会・(財)山口県埋蔵文化財センター(編), 下松(山口)
- 宮崎亮一・森田レイ子(2002)『太宰府条坊跡20－第199次調査－』, 太宰府市教育委員会(編), 太宰府(福岡)
- 八木充(1989)「第一編第五章 律令国家と都濃地方」, 下松市史編纂委員会(編)『下松市史』, 下松(山口)
- 山本一郎(1998)『惣ヶ迫古墳』, 下松市教育委員会(編), 下松(山口)
- 山本一朗(1999)『為弘古墳群』, 下松市教育委員会(編), 下松(山口)